

別当 薫 1950年 パ・リーグ最高殊勲選手賞トロフィー

2018年シーズン、東京ヤクルトの山田哲人選手が3度目のトリプルスリーを達成しました。NPBでは過去12度（別表参照）達成されている記録で、複数回達成したのは山田選手のための偉業となります。

この記録は、1950年のセ・パ両リーグがスタートした年に、セ・リーグを制した松竹の岩本義行、パ・リーグを制した毎日の別当薫の両選手が初めて達成しています。今回は当博物館で収蔵している、同年の別当選手のMVPトロフィーをご紹介します。

別当選手は兵庫の甲陽中から慶大に進み、42年春の首位打者となる等、その打撃で戦時下の神宮のスターとなりました。翌年の学徒動員、45年の終戦を経て復員し、46年は慶大主将として春の優勝に貢献。卒業後、社会人の全大阪を経て、48年、27歳で大阪タイガースに入団。“ダイナマイト打線”の中核を担い、戦後復興とともに

に急激に人気を高めつつあった当時のプロ野球でもスター選手となりました。

49年シーズン終了後、新球団の毎日オリオンズに若林忠志投手らとともに移籍。50年、43本塁打、105打点で2冠を獲得、さらに別表の通り打率.335、34盗塁でトリプルスリーを達成する活躍で、毎日をパ・リーグの初代王者に導きリーグMVPを受賞しました。また、日本ワールドシリーズでもMVPを受賞しています。その

後、毎日（大毎）、近鉄、大洋、広島で通算20年にわたり監督を務め、山内一弘、榎本喜八ら多くの好打者を育て、1988年野球殿堂入りしています。

このトロフィーは、高さ55cmで、大理石の台座の上部には王冠を掲げた人物のブロンズ像が据えられています。1959年の当博物館開館時に別当さんご本人からご寄贈いただいており、現在、プロ野球の歴史コーナーで展示しています。

公益財団法人
野球殿堂博物館
学芸員 関口貴広

NPBトリプルスリー達成者一覧

選手名	球団	年度	打率	本塁打	盗塁
岩本 義行	松 竹	1950（セ・リーグ）	.319	39	34
別当 薫	毎 日	1950（パ・リーグ）	.335	43	34
中西 太	西 鉄	1953（パ・リーグ）	.314	36	36
簗田 浩二	阪 急	1983（パ・リーグ）	.312	32	35
秋山 幸二	西 武	1989（パ・リーグ）	.301	31	31
野村 謙二郎	広 島	1995（セ・リーグ）	.315	32	30
金本 知憲	広 島	2000（セ・リーグ）	.315	30	30
松井 稼頭央	西 武	2002（パ・リーグ）	.332	36	33
山田 哲人	ヤクルト	2015（セ・リーグ）	.329	38	34
山田 哲人	ヤクルト	2016（セ・リーグ）	.304	38	30
山田 哲人	ヤクルト	2018（セ・リーグ）	.315	34	33
柳田 悠岐	ソフトバンク	2015（パ・リーグ）	.363	34	32

出典：NPB ホームページより

